

■ 概況

2/2～2/8のNYMEX・WTIは、引き続き、主要産油国の協調減産実施と米国の供給増加見通しを材料に、52.17～53.83ドルの範囲で、一進一退で推移した。

2月9日は、前日の米国ガソリン在庫減少の報告を好感したガソリン市場の急伸につられた形で、原油先物も値を上げ、続伸した。為替相場の対ユーロのドル安による原油の割安感がこれを後押しした。3月限の終値は前日比0.66ドル高の53.00ドルだった。

週末10日は、国際エネルギー機関(IEA)月報で、OPECの1月産油量が前月比100万バレル/日減少し、減産目標の約9割を達成したと報告したことから、3営業日続伸した。ただ、午後のペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数591機(前週比8基増加)の報告が上値を抑えた。3月限の終値は前日比0.86ドル高の53.86ドルだった。

週明け13日は、石油輸出機構(OPEC)月報で、加盟国の1月産油量が3,215万バレル/日(前月比89万バレル減)と生産上限3,250万バレル/日を下回ったとの報告があったものの、稼働リグ数の増加傾向等による米国の増産懸念やドル高進行により、4営業日振りに反落した。3月限の終値は前日比0.93ドル安の52.93ドルだった。

14日は、OPEC・非OPEC協調減産の順調な実施に支えられ反発した。ただ、この日のイエレン連邦準備制度理事会(FRB)議長の早期利上げに前向きな議会証言でドル高が進行、原油の割高感が上値を抑えた。3月限の終値は前日比0.27ドル高の53.20ドルだった。

15日は、米エネルギー情報局(EIA)の週間統計で、原油在庫が市場予想を上回る増加を示したことから、小反落し

た。ただ、OPEC・非OPEC産油国の協調減産の進行も認識されており、下値を支えた。3月限は前日比0.09ドル高の53.11ドルで終了した。

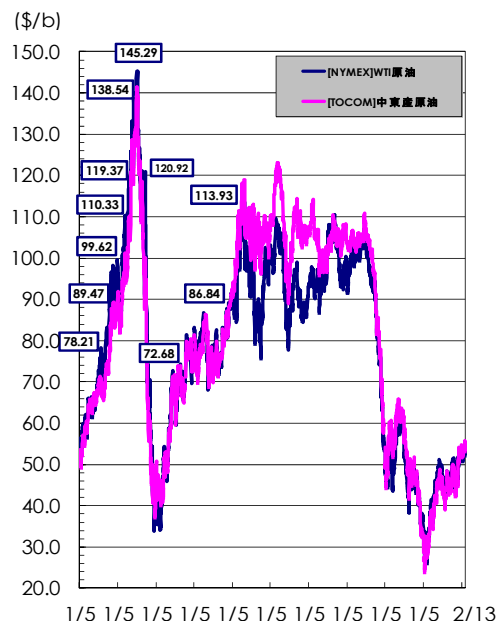
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(4月渡し)は、前週53.10～55.30ドルと、引き続き堅調に推移した。9日は53.80ドル、10日は54.10ドル、13日は54.80ドル、14日は53.90ドル、8日は53.90ドルで推移した。

為替は、前週111.75～113.07円でやや円高気味に推移した。9日は112.06円、10日は113.74円、13日は113.96円、14日は113.69円、15日は114.50円で推移した。

主要元売会社の2月第3週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから2.0円の値下げに分かれた。原油価格はやや値下がりし、為替レートは小幅に円高で、原油調達コストはやや値下がりした。

そのような中で、2月13日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値下がり130.8円、軽油が0.1円値下がり110.2円、灯油は横ばいの78.1円だった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は3週連続の横ばいだった。この週(2月第2週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は据え置きから1.5円の値上げだった。

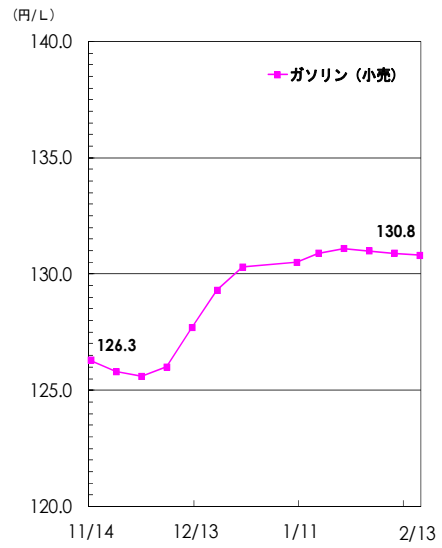
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	2/5 ~ 2/11	4,059 ▲109	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	96.2 ▲2.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	2/11	13,239 ▲293	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	2/13	54.84 ▼-0.88	▲24.5
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	2/13	52.93 ▼-0.08	▲23.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	1月中旬	53.33 ▲2.36	▲16.40
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	39,213 ▲1,581	▲11,434
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	116.89 ▲0.50	▲2.70
	外国為替TTSレート (¥/\$)	2/13	114.96 ▼-1.59	▼-0.63



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/5 ~ 2/11	1,077 ▲ 89	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	943 ▲ 40	▼ -	
	輸出	"	54 ▼ -78	▼ -	
	在庫	2/11	1,745 ▲ 81	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/7 ~ 2/13	47.7 ▼ -1.4	▲ 15.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/7 ~ 2/13	49.5 ▼ -0.3	▲ 16.5
		(TOCOM/中部)	2/13	49.9 ▼ -0.7	▲ 17.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/13	130.8 ▼ -0.1	▲ 17.3	

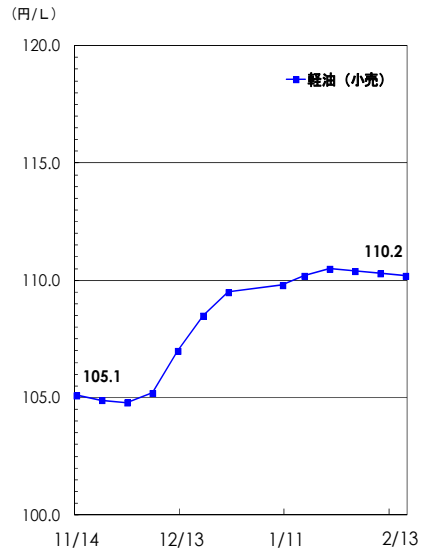
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

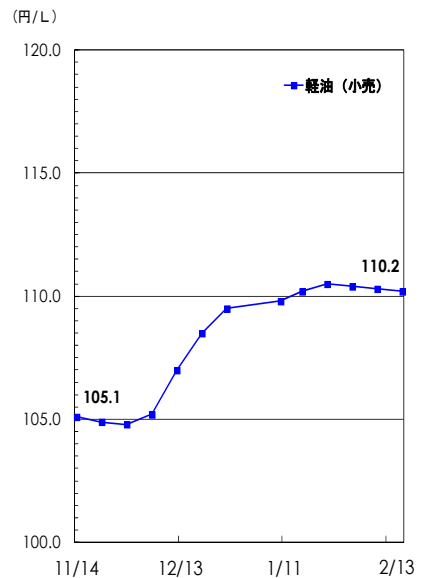
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/5 ~ 2/11	859 ▲ 80	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	609 ▼ -70	▼ -	
	輸出	"	139 ▲ 46	▼ -	
	在庫	2/11	1,603 ▲ 110	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/7 ~ 2/13	48.3 ▼ -1.0	▲ 14.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/7 ~ 2/13	46.0 → 0.0	▲ 8.9
		(TOCOM/中部)	2/13	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/13	110.2 ▼ -0.1	▲ 11.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/5 ~ 2/11	495 ▼ -4	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	601 ▼ -34	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -30	▼ -	
	在庫	2/11	1,527 ▼ -106	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/7 ~ 2/13	50.4 ▼ -1.7	▲ 14.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/7 ~ 2/13	48.8 ▼ -0.6	▲ 17.6
		(TOCOM/中部)	2/13	49.5 ▲ 0.5	▲ 19.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/13	78.1 → 0.0	▲ 16.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

2月15日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間石油統計が、原油在庫で前週比950万バレル増加と市場予想(同350万バレル増)を大幅に上回る増加、ガソリン在庫も減少予想(同80万バレル減)に反して280万バレル増加を示したことから、小反落した。ただ、OPEC・非OPEC主要産油国による協調減産が予想を上回る速度で実施されていること、前日の米国石油協会(API)の在庫速報で増加予想が、ある程度市況には織り込み済みであると見られることから、下げ幅は限定的だった。3月限の

終値は前日比0.09安の53.11ドル、4月限の終値は前日比0.11ドル安の53.60ドルだった。

EIAによると、2月13日時点のガソリンの小売価格は前週比1.4セント値上がりの1ガロン2.307ドル(70.0円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.7セント値上がりの2.565ドル(77.8円/ℓ)。ガソリン、ディーゼル共に5週振りの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2月5日～11日に休止したトッパー能力は前週に続きゼロであった。(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は405.9万klと、前週に比べ10.9万kl増加。前年に対しては15.7万klの増加。トッパー稼働率は96.2%と前週に対して2.5ポイントの増加、前年に対しては6.7ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/9.0%増、ジェット/5.2%増、灯油/0.8%減、軽油/10.2%増、A重油/1.1%増、C重油/12.5%減。今週のC重油の輸入は5.8万kl(前週比3.3万kl増)。軽油の輸出は13.9万kl(前週比4.6万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、ジェットが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェットのみが増加し、その他の油種で減少した。原油価格は小幅で値上がりしたが、円高で相殺され、小売価格は3週連続で値下がりとなる中、ガソリンの出荷は94.3万kl(対前週4.5%増)と2週振りで前週比で増加、2週連続で前年比で減少となり、2週連続で100万klを下回った。

ジェット10.3万kl(対前週75.3%増)、灯油60.1万kl(対前週5.3%減)、軽油60.9万kl(対前週10.4%減)、A重油30.0

万kl(対前週0.7%減)、C重油28.0万kl(対前週10.5%減)。

(単位:千KL)

	今週 (2/5 ~ 2/11)	前週 (1/29 ~ 2/4)	前週比	
ガソリン	943	903	▲ 40	(4%)
ジェット燃料	103	59	▲ 44	(75%)
灯油	601	635	▼ -34	(-5%)
軽油	609	679	▼ -70	(-10%)
A重油	300	302	▼ -2	(-1%)
C重油	280	313	▼ -33	(-11%)
合計	2,836	2,891	▼ -55	(-2%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

2月11日時点の在庫は、灯油のみが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは174.5万kl、前週差8.1万kl増。前年に対しては8.1万kl多い。

灯油は152.7万kl、前週差10.6万kl減。前年に対しては0.9万kl少ない。

軽油は160.3万kl、前週差11.0万kl増。前年に対しては10.2万kl少ない。

A重油は75.0万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては1.8万kl多い。

C重油は195.5万kl、前週差5.4万kl増。前年に対しては11.4万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (2/11)	前週 (2/4)	前週比	
ガソリン	1,745	1,664	▲ 81	(5%)
ジェット燃料	906	899	▲ 7	(1%)
灯油	1,527	1,633	▼ -106	(-6%)
軽油	1,603	1,493	▲ 110	(7%)
A重油	750	733	▲ 17	(2%)
C重油	1,955	1,901	▲ 54	(3%)
合計	8,486	8,323	▲ 163	(2.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

2月7日から2月13日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートも円高で、原油コストは値下がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン100～102円台、軽油48円台、灯油49～51円台でやや値下がりした。海上スポット価格は、ガソリン101～102円台、軽油48～49円台、灯油48～50円台、先物価格はガソリン102～103円台、軽油46円台、灯油47～49円台で、こちらも横ばいから後半に来てやや値下がりである。元売の卸価格は据え置きから2.0円の値下がりだった。

東燃ゼネラルは2月16日、18日以降の外販スポット価格を、ガソリン、軽油を2.0円、灯油を1.0円、重油を0.3円値上する旨通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは横ばいだったが、製品スポット市況は前週の卸価格値上がりの影響もあり、やや堅調に推移した。週間のガソリン販売量は、100万klを下まわった。

2月第3週(2月16日～2月22日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(2月7日～2月13日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.4円、灯油は1.7円、灯油は1.0円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.9円、灯油は1.8円、軽油は0.6円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.3円、灯油が0.6円の値下がり、軽油が横ばいだった。原油価格は値下がり、為替も円高で、原油コストは値下がりとなった。

2月第3週の大手元売の卸価格は、据え置きから2.0円の値下がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (2/7 ~ 2/13)	前週 (1/31 ~ 2/6)	前週比
スポット価格	レギュラー	47.7	49.1	▼ -1.4
	灯油	50.4	52.1	▼ -1.7
	軽油	48.3	49.3	▼ -1.0
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (2/7 ~ 2/13)	前週 (1/31 ~ 2/6)	前週比
先物価格	レギュラー	49.5	49.8	▼ -0.3
	灯油	48.8	49.4	▼ -0.6
	軽油	46.0	46.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (2/7~2/13実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.4	▼ -0.3	▼ -0.9
灯油	▼ -1.7	▼ -0.6	▼ -1.2
軽油	▼ -1.0	➡ 0.0	▼ -0.5
A重油	▼ -0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

2月13日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値下がりの130.8円、軽油が前週比0.1円値下がりの110.2円、灯油は前週比横ばいの78.1円だった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は3週連続の横ばいだった。都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは16都府県、横ばいは7県、値下がり24道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の125.6円(前週比0.1円安)、自が徳島県の126.2円(同0.1円安)だった。最高値は長崎県の138.7円(同0.8円安)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比0.8円高の沖縄県(135.8

円)、値下がり県は0.8円安の北海道(128.6円)、横ばいが高知県・福井県・山形県・山梨県・新潟県・群馬県・茨城県の7県だった。

原油コストは横ばいだったが、3週連続でガソリン小売価格はわずかに値下がりした。今週の元売会社の卸価格は据え置きから2.0円の値下げに分かれた。原油価格はやや値下がりし、為替レートもやや円高で、原油コストはやや値下がりしたが、大半の元売りは卸値を据え置いたことから、次週(2月20日)のガソリン・灯油の小売価格は横ばいが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (2/13)	前週 (2/6)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	130.8	130.9	▼ -0.1	08/8/4 185.1
	灯油	78.1	78.1	➡ 0.0	08/8/11 132.1
	軽油	110.2	110.3	▼ -0.1	08/8/4 167.4

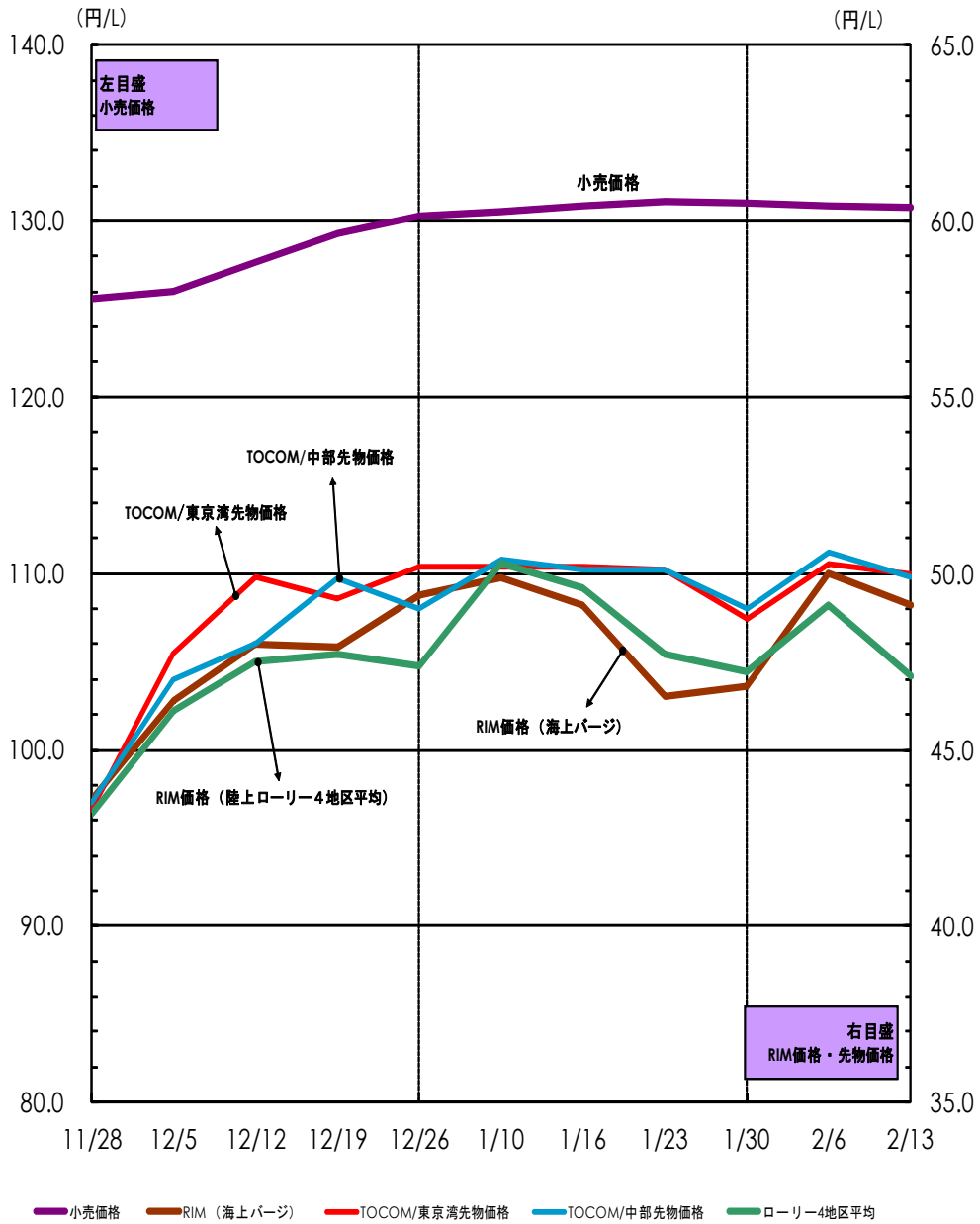
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/11/28 ~ 2017/2/13)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第45号)の公表は、2/24(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。